

令和元年度事業計画

認定特定非営利活動法人 RASA-Japan

事業方針

「RASA-Japan の理念と行動基準」を事業推進の指針として令和元年度の事業を展開したいと考えています。そして定款第 5 条に規定されている、特定非営利活動事業に従い以下の事業を推進してまいります。

1. 学校等の教育施設ならびに生活支援施設建設事業。

(1) 小学校の建設

建設場所・・・Cacarong Bata Elementary School

所在地・・・Papdre Pio, Cacarong Madanda, Pandi, Bulacan

(2) 敷地および建物の現況

校舎敷地・・・約 3, 680 m²

既存建物・・・約 726 m² (3階建ての15部屋の建物1棟)

既存建物の使用状況・・・全校生徒数は1,392名、授業は午前と午後の2部授業である。

建物は3階建て15室の建物が1棟あるのみ。

必要な教室は幼稚園(Kinder)3室、1年生から6年生まで各2教室合計12室の合計15室が必要な状態。しかし、校長室兼応接室に1部屋、職員室に1部屋使用しているためにその分教室が不足している。不足する教室は低学年の体が小さい幼稚園の教室を板で間仕切りして間に合わせている状況であるがとても狭い上に隣の部屋の子供たちの声がうるさい。

また、フィーディング(給食)を行っているが食堂がないため廊下で調理と給食をしている状態で衛生上も運営上も問題が多い。

(3) 建設の規模・・・RASAの予算の関係で、平屋建て3室(各室トイレ付)ただし将来2階建てが可能な強度の建物にする。予算概算見込み630万円(建設費のみ)

2. 栄養障害児救済事業

(1) 給食による栄養改善(フィリピンは学校給食制度がない)

対象の学校・・・Southvill 1 Elementary School

所在地・・・ラグナ州 カブヤオ市 ニウガン 33ブロック

対象者・・・学校が選定した栄養失調児童のうち5年生50名、6年生50名
合計100名

対象者選定の理由・・・学校長の方針は、貧困からの脱出は読み書き計算を基礎とする学力を身につけることに基本を置いている。児童が無事に6年

間の小学校課程を修了し、ハイスクールに落第せず進級することに主眼を置いている。そのため、進級を控えている5、6年生に焦点を絞った栄養改善による体力増強と、授業に集中できる気力強化のための給食を実施しRASAがその一翼を担っている。

(2) 給食の質の改善活動

BMI (肥満度指数) 管理

給食の効果測定は、毎月の身長と体重測定値からBMIを算出。算出したデータの推移で判定している。

BMI改善のため、献立に粉ミルクやビタミン剤を追加して体力増強の一助としている。今年もBMIを給食効果の特性値に置いて管理していく。

3. ボランティア派遣事業

(1) 派遣する対象事業

学校建設事業・・・ブラカン州パンディー市カカロン・バタ小学校の平屋3教室の建設現場へ派遣。建設活動は、ボランティアの安全を考慮して簡単な作業とする。

砂ふるいをしたり、ブロックを運んだり、バケツリレーでのセメント運んだり、鋼材への錆止め塗りといった屋外作業。

春休みの2月は、日本は寒の直中でも現地は乾季であり日本の真夏と同じ気温。暑さ対策をして作業に臨んでいる。活動の合間には給食活動のグループと同じく、日本語教室を班別で実施し多くの子供たちと親しくなって日本ではできない子供たちとの触れ合いを体験する。日本語に対する子供たちの反応は高い。

給食活動事業・・・ラグナ州カブヤオ市サウスビル1小学校の栄養失調児童に対する栄養障害児救済事業にスタディー・ツアーとして大学生を引率。

作業の内容は、野菜の皮むき、刻み、配膳、食器洗いなどの屋内の作業。作業場所が限られているため、決められた時間での作業を班別交代で行なっている。作業は専属の調理人の指導を受け、連携をとっての作業。

衛生面を配慮した活動が大事。ボランティアは大学生であり、家庭でしかできない台所仕事だけに作業が限られるが良い経験をしている。調理作業がない班は学校の指示を受け、日本語の授業を行なう。

ホームステイ・・・ボランティアの宿泊はホテルでなく、一人ずつ別々の家庭にホームステイする。

現地の家族の一人となって、寝食を共にするので貴重な異文化体験ができる。

日本では希薄になっている近所の人たちとの交流が、フィリピンでは想像以上の親しい付き合いであり、お互いの助け合いの共同生活に驚かされている。

日常生活で、日本での生活は物質な豊かさと便利さに恵まれているが、フィリピンに身を置いてみてフィリピンの人々の日常生活を実感できる貴重な体験は、ボランティア学生にとって、これからの行動や生活に強いインパクトを与えている。ホームステイによって家族を大切に作る体験もさせたいと思っている。